

第181回 原医研セミナーのご案内

下記のとおりセミナーを開催いたします。多数ご参集ください。

記

日 時： 平成28年4月21日（木）午後4時～
場 所： 霞総合研究棟 7階 701セミナー室

演 題：国連科学委員会（UNSCEAR）による東京電力福島第一原子力発電所事故の影響評価

演 者：線量測定・評価研究分野 保田 浩志 教授

2011年3月に東京電力福島第一原子力発電所において過酷事故（以下「福島原発事故」）が発生したのを受け、原子放射線の影響に関する国連科学委員会（United Nations Scientific Committee on the Effects of Atomic Radiation、通称「UNSCEAR（アンスケア）」）は、2011年5月の年次会合において、当該事故の人体や環境への影響を科学的に解析・評価して2013年の報告書にまとめる計画を定め、2年半以上にわたる集中的な取り組みを経て、2014年4月に「2011年東日本大震災の原子力事故による放射線被ばくのレベルと影響」と題する報告書（以下「福島報告書」）を刊行した。さらに、その後も、福島やその周辺における状況について、新たに公表された研究成果を集約・評価して、年刊の白書にまとめる作業を継続している。

UNSCEARは、1955年の国連総会で設置された国連の委員会で、27の加盟国（2016年現在）が任命した科学分野の専門家で作成される。同委員会の役割は、電離放射線による被ばくの線量と影響について科学的評価を行い、その結果を国連総会に報告することである。そのために、UNSCEARでは、事務局を通して国連加盟国、国際組織および非政府組織等から関連するデータや学术论文等を収集しつつ、重要な課題の検討やそれについての科学的評価を実施し、年次会合での審議・承認を経て、信頼に足る情報を報告書にとりまとめている。

演者は、国連による公募・採用を経て、2011年12月から約3年間UNSCEAR事務局（在オーストリア国ウィーン市）においてプロジェクトマネージャーとして勤務し、福島報告書の作成に関わる諸々の調整作業に携わった。本セミナーでは、その作業での苦労話などを交えながら、同報告書の概要について紹介したい。

連絡先： 広島大学霞地区運営支援部総務グループ 082-257-1639（内線 霞6279）